

うっしっしいー情報2016

3月市



豊岡農業改良普及センター

3月9日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が86万9千円、雌が84万4千円でした。

普及センター調べ（税込価格）

（本人落としも含むため、JA公表数値とは異なります）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
宍粟・佐用	12	0.949	842,130	12	0.858	785,610	24	813,870
篠山	7	0.920	828,360	5	0.848	844,128	12	834,930
丹波	26	0.969	878,954	17	0.857	835,539	43	861,790
朝来	9	1.008	889,200	10	0.834	878,688	19	883,667
播磨	10	0.929	864,972	14	0.801	749,520	24	797,625
美方郡	64	0.948	867,662	57	0.851	885,505	121	876,067
豊岡	36	0.948	866,280	16	0.896	865,823	52	866,139
養父	20	1.001	884,412	16	0.850	817,898	36	854,850
摂津・神戸	4	0.939	903,690	1	0.776	719,280	5	866,808
県北C	1	0.870	835,920	3	0.788	731,160	4	757,350
市場全体	189	0.957	869,126	151	0.849	844,095	340	858,009

3月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	芳悠土井	44	0.975	901,702	33	0.874	897,971	77	900,103
2	丸宮土井	28	0.988	919,581	23	0.834	844,278	51	885,621
	総計	189	0.957	869,126	151	0.849	844,095	340	858,009
3	芳山土井	44	0.969	865,129	34	0.850	847,673	78	857,520
4	照忠土井	35	0.930	829,224	30	0.838	848,376	65	838,063
5	千代藤土井	10	0.934	846,936	8	0.909	811,350	18	831,120
6	丸富士井	12	0.905	835,470	14	0.802	774,977	26	802,897

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	芳悠土井	A+	A → A+	A → A+	B	A	A++ → A+++
2	丸宮土井	B	B	A+	A++	A++	A++
3	芳山土井	A+	A++	A++	C	A+	A++
4	照忠土井	B	A+++	A+	A+	A+++	A+
5	千代藤土井	A	A+++	C → D	A+	A++	A++
6	丸富士井	B	A++ → A+	D	C → B	A	A++

北部農業技術センター提供 (育種価評価は平成28年1月現在)

申告済んでほっと一息、さて。 ～経営を数字でつかもう～

1. はじめに

確定申告も終わり、ほっと一息。今は数字なんか見たくない!・・・とお考えかもしれません。まあそう言わず、一年のまとめができたこの時に、決算書を見て経営内容を見直してみませんか?

2. 母牛1頭でいくら儲かっていますか?子牛1頭をいくらで生産していますか?

昨年は子牛価格の高騰で、収入が多かった事と思います。仮にこのままの相場が続けば、手元に現金が残るでしょう。・・・が、現実はそのなかに甘くありません。万が一急激に価格が低下しても、慌てることなく対処できるよう、子牛1頭がいくらで生産されているのか、自分の経営内容を数字でつかんでおきましょう。

(1) 販売可能な子牛頭数

繁殖和牛経営は、子牛販売が主な収入源です。しかし生産されたすべての子牛が販売できるわけではありません。母牛の妊娠率の低下や子牛の事故といったマイナス要因、母牛更新や増頭のための育成牛の保留によって子牛販売頭数が限定されます(図)。

(2) 子牛1頭あたりの生産費

まず提出した決算書の控えをご用意ください。その中で生産費とは、決算書にある経費欄の租税公課から雑費までの合計金額となります。この金額を販売した子牛の頭数で割れば子牛1頭あたりの生産費が計算できます。

今回の市場平均価格 85 万円で子牛が販売でき、生産費が 35 万円とすると、販売子牛 1 頭あたりの利益は $85 \text{万円} - 35 \text{万円} = 50 \text{万円}$ になります。

言い換えれば販売価格が 35 万円を下回ると、利益が出ないということになります。

ご自身の子牛1頭あたりの生産費と子牛販売価格を比較し、経営がプラスとなるのかマイナスとなるのかシミュレーションをしてみましょう。

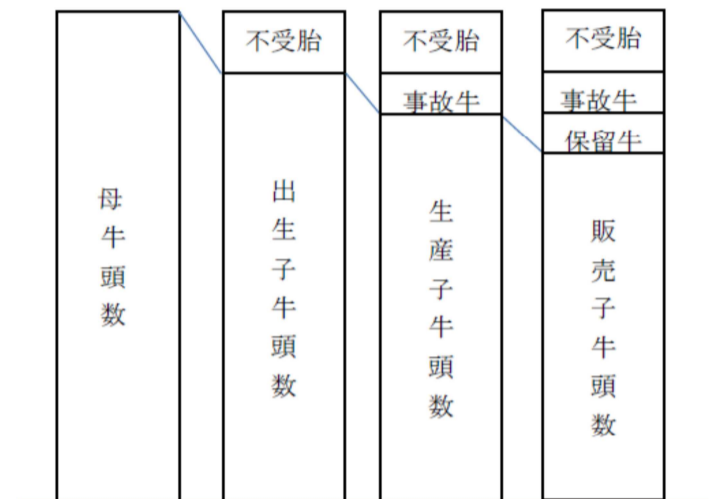


図 母牛頭数と販売子牛頭数の関係

3. 子牛の生産性を高めてコスト低減!

経費には、経営努力や管理技術の改善により減らすことができるものがあります。例えば診療衛生費は、飼養管理を徹底し病気を減らすことで抑えることができます。また飼料費は、自給飼料生産や地元耕種農家との連携により減らすことができます。繁殖成績を改善し子牛の販売頭数を増やせば、1頭あたりの生産費は下がります。

経営を良くするためには、努力で減らせる部分について、自分の経営にあった形に変えていくしかありません。まずは自分の経営の課題を明確にし、問題点について改善していきましょう。そのためには日々の作業を記録しましょう。

4. 将来を見据えた経営体になろう

以前、このお便りで、「今年の子牛販売可能頭数はすでに決まっている」というお話をさせていただきました(2015年1月号)。価格変動はあるものの、平成28年の販売予定頭数(平成27年4月以降の出生頭数+平成27年6月までの受胎頭数-保留頭数)に昨年の平均価格を掛ければ今年のおおよその販売額が計算できます。生産費は大きく変わらないとして、おおよその所得も予想できます。そこから生活費を差引いて余裕があれば、経営を充実・発展させる方向を考えてみましょう。

また、将来的に経営を継続させるためには当然育成牛が必要です。例えば経産牛を10産で廃用した場合、10分の1の頭数を毎年保留する必要があります。子牛価格が高騰している今こそ、次代の担い手をしっかり育成しておきましょう。

みなさんの中で、既に増頭の計画や牛舎の補修・改造を考えている方もいるでしょう。財布に余裕のある今こそ将来を見通して長い目で考え、そのために今できることを確実にいきましょう。

- | |
|--|
| <p><ポイント></p> <ul style="list-style-type: none">○自分の経営の中味を数字でしっかりつかみましよう○問題点と改善点を明確にし、改善できるところに取り組みましよう○経営の将来計画をたて、安定的に継続できる経営にしましよう |
|--|